

2007年3月期 決算説明会

2007年6月1日



リバーエレクトック株式会社

(JASDAQ 6666)

■ 会社概要	P. 3 ~ 7
■ 2007年3月期決算概要	P. 8 ~ 19
■ 2008年3月期の経営方針と見通し	P.20 ~ 32

会社概要

総務部部长

大塩 久男

会社概要 (2007年3月末現在)

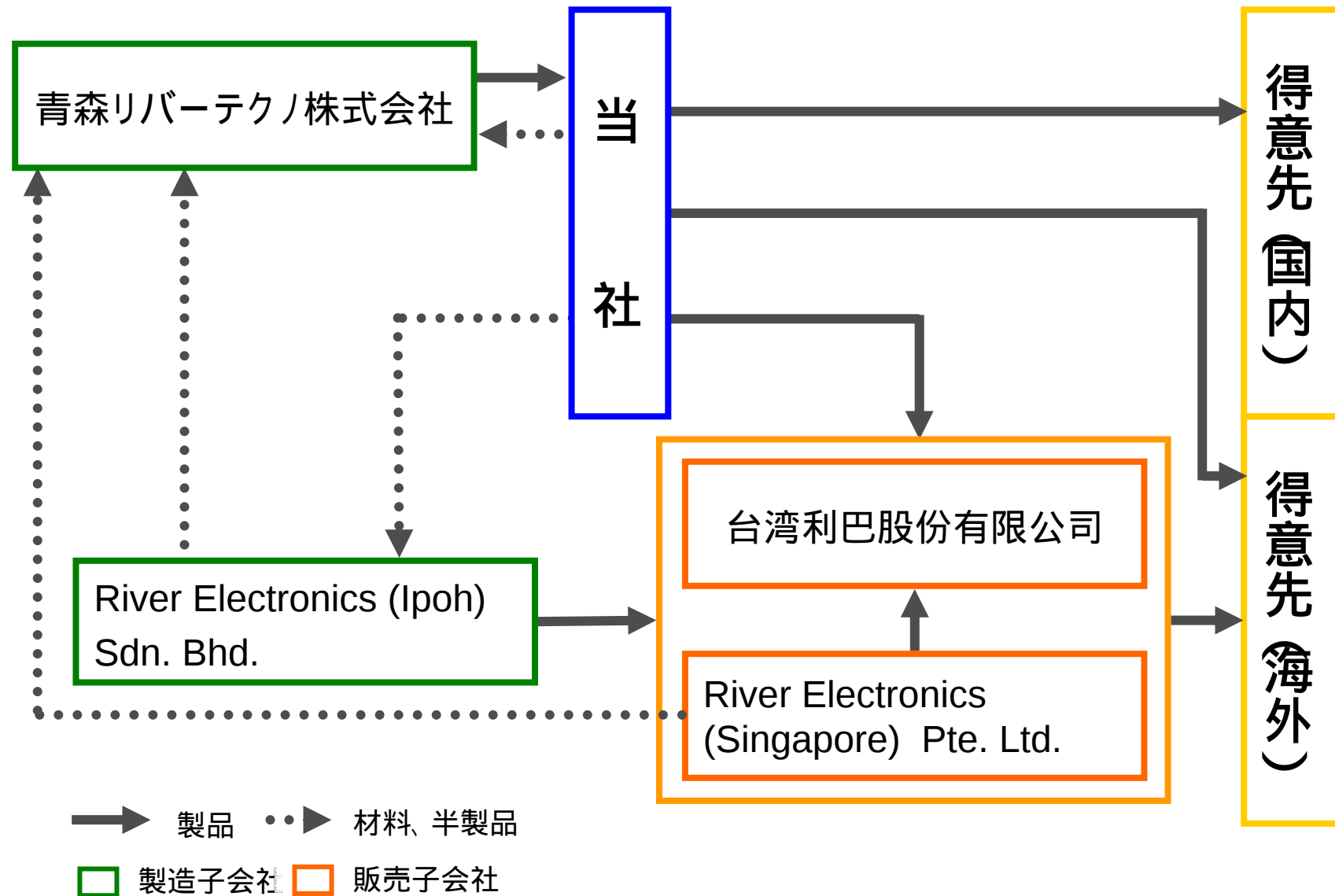


- 社 名 : リバーエレクトック株式会社
- 所 在 地 : 山梨県韮崎市富士見ヶ丘2丁目1 - 11
- 設 立 : 1951年3月9日
- 事 業 内 容 : 電子部品の製造販売
- 資 本 金 : 1,070百万円
- 単 元 株 式 数 : 100株
- 売 上 高 : 9,248百万円 / 8,403百万円 (連 / 単、2007年3月期)
- 経 常 利 益 : 890百万円 / 771百万円 (連 / 単、2007年3月期)
- 社 員 : 849人 / 121人 (連 / 単、臨時・派遣を含む)
- グループ会社 : 青森リバーテクノ株式会社
River Electronics (Singapore) Pte. Ltd.
River Electronics (Ipoh) Sdn. Bhd.
台湾利巴股份有限公司

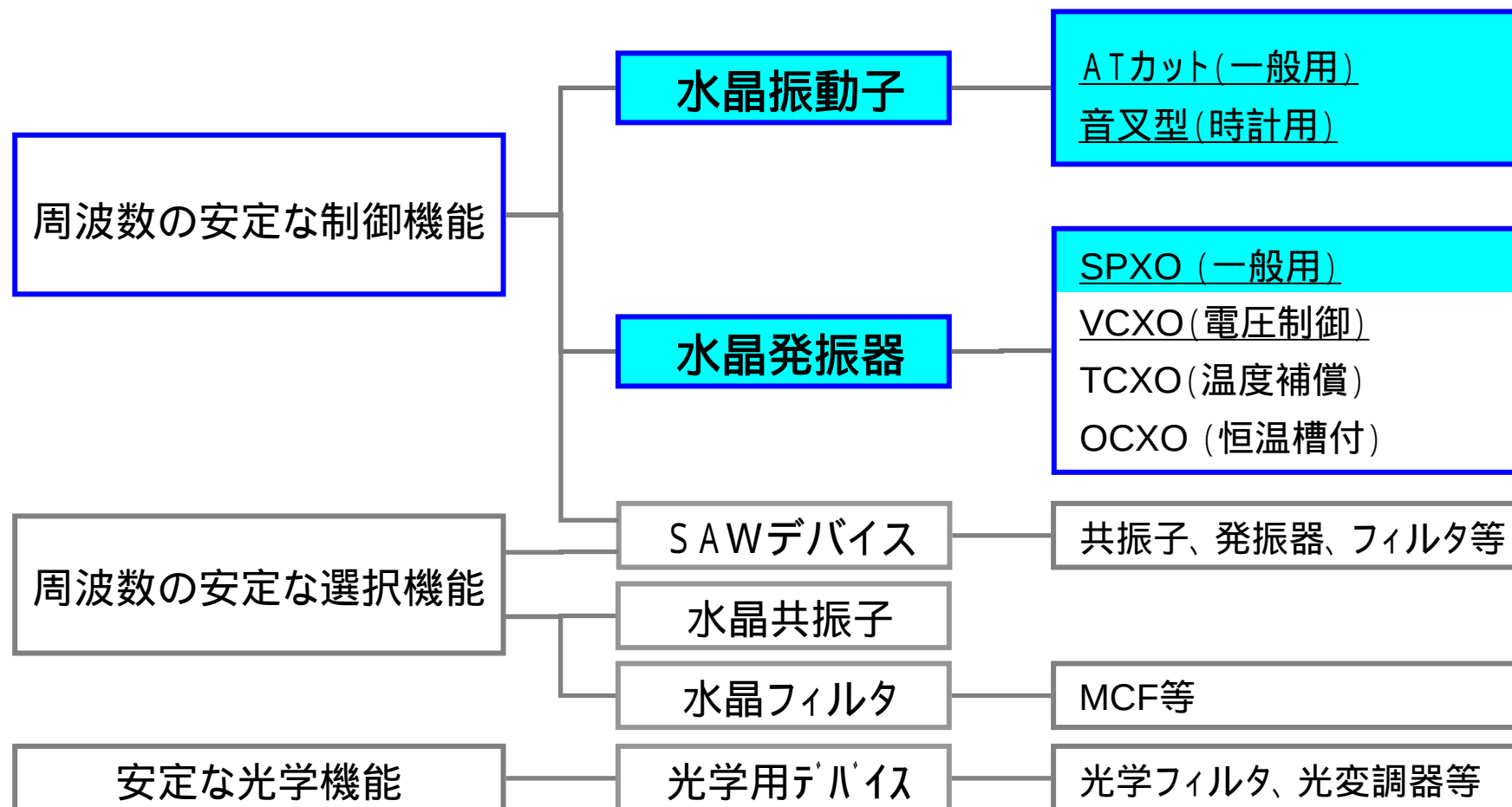
当社グループの事業の内容 (2007年3月末現在)



事業系統図 (2007年3月末現在)



SMD (表面実装) タイプの小型製品に特化



 は当社グループで製造・販売をしている水晶デバイス

SMD: Surface Mount Device

2007年3月期決算概要

超小型水晶製品の受注が大幅に増加 売上高、利益に大きく貢献

売上高

- ・ FCX-06(2016)は、売上高前期比8.4倍
- ・ 無線モジュールは、携帯電話、ゲーム向けが好調
- ・ PC関連は、海外向けが好調
- ・ 車載は、キーレス、カーナビ向けが安定的な成長を持続

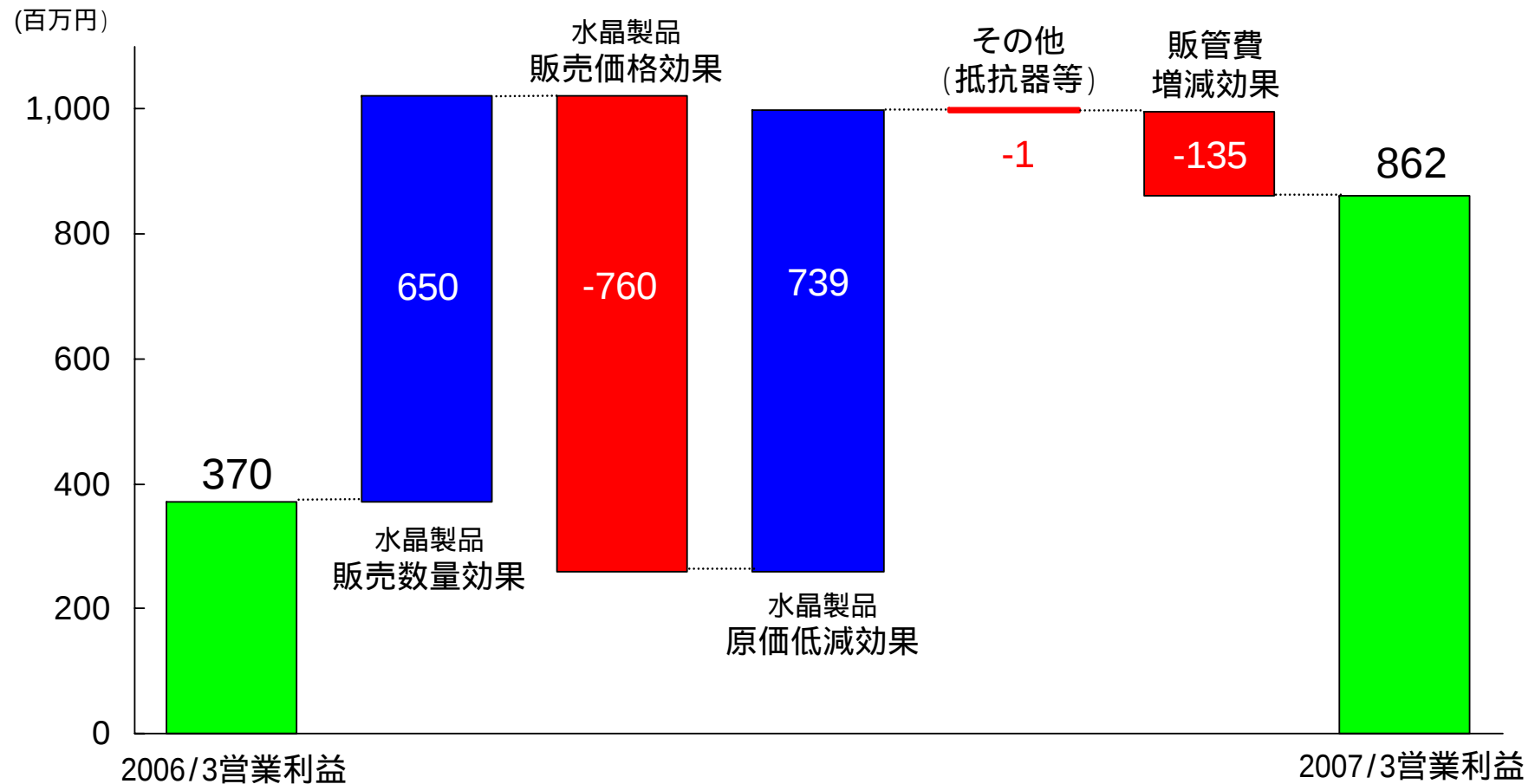
利益

- ・ 増収(数量)効果及び原価低減策により、販売価格の下落を吸収し、大幅な増収を実現

小型水晶製品の大幅な受注増による売上高の増加
数量効果に原価低減努力もあり、収益性も大幅アップ

(百万円)	2007/3実績			2006/3 実績	2007/3 期初計画	2007/3 修正計画	達成率 (対修正計画)
	金額	前期比	増減額				
売上高	9,248	+ 14.9%	1,202	8,045	8,703	8,851	104.5%
売上総利益 売上総利益率	2,623 (28.4%)	+ 31.5%	627	1,995 (24.8%)	2,326 (26.7%)	2,398 (27.1%)	109.4%
営業利益 営業利益率	862 (9.3%)	+ 132.9%	491	370 (4.6%)	693 (8.0%)	775 (8.8%)	111.2%
経常利益 経常利益率	890 (9.6%)	+ 86.9%	414	476 (5.9%)	649 (7.5%)	748 (8.5%)	118.9%
当期純利益 当期純利益率	498 (5.4%)	+ 191.3%	327	171 (2.1%)	312 (3.6%)	381 (4.3%)	130.7%

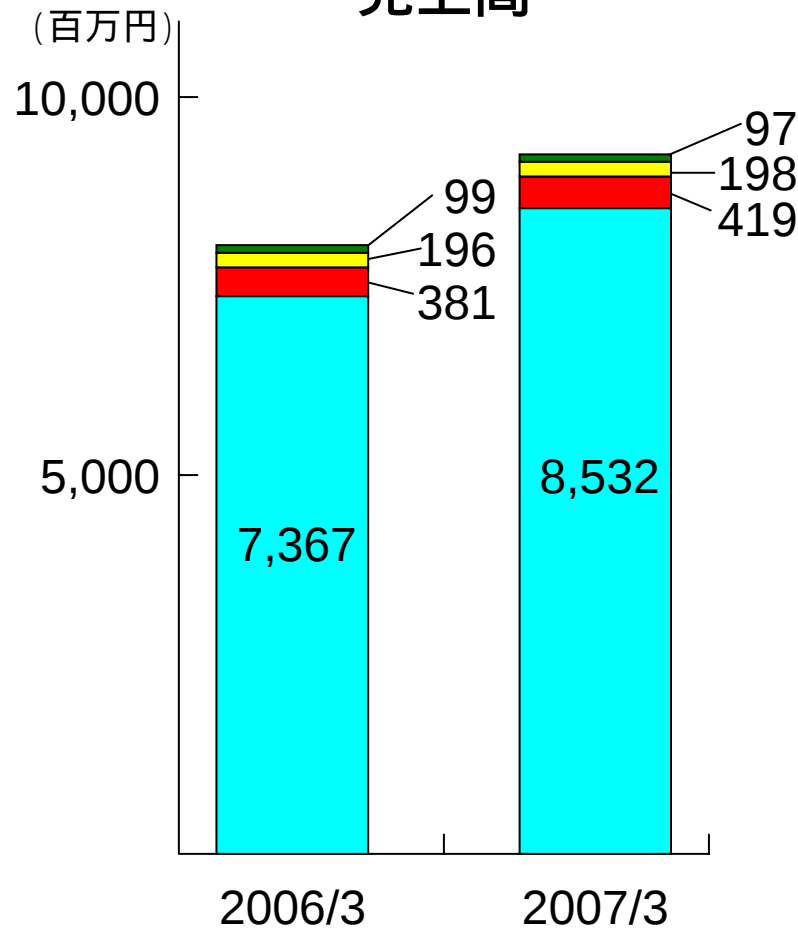
付加価値の高い小型水晶製品の受注増の影響が大きい



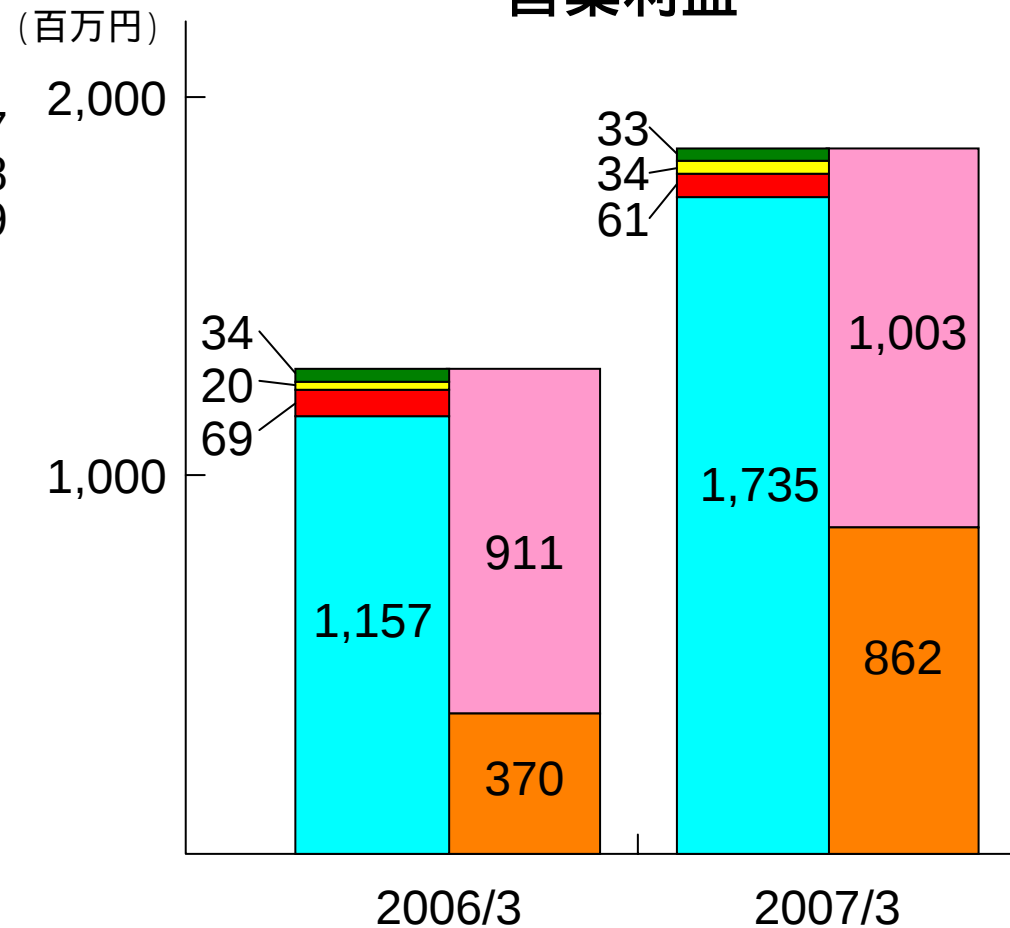
事業の種類別セグメント情報

■ 水晶製品
 ■ 抵抗器
 ■ インダクタ
■ その他
 ■ 全社・消去
 ■ 連結営業利益

売上高

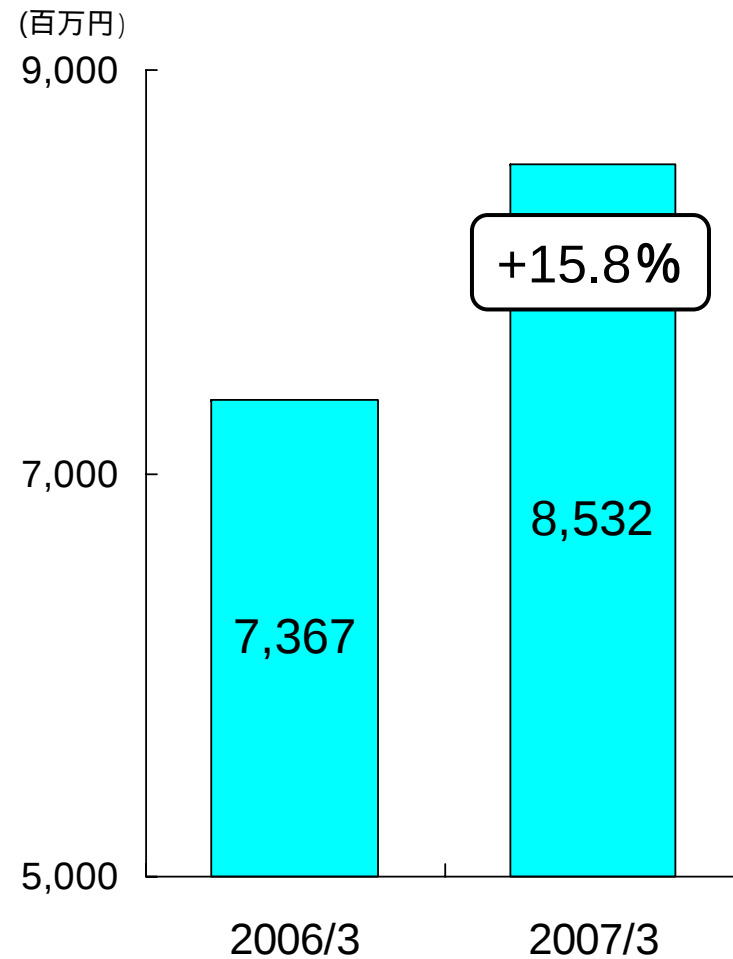


営業利益

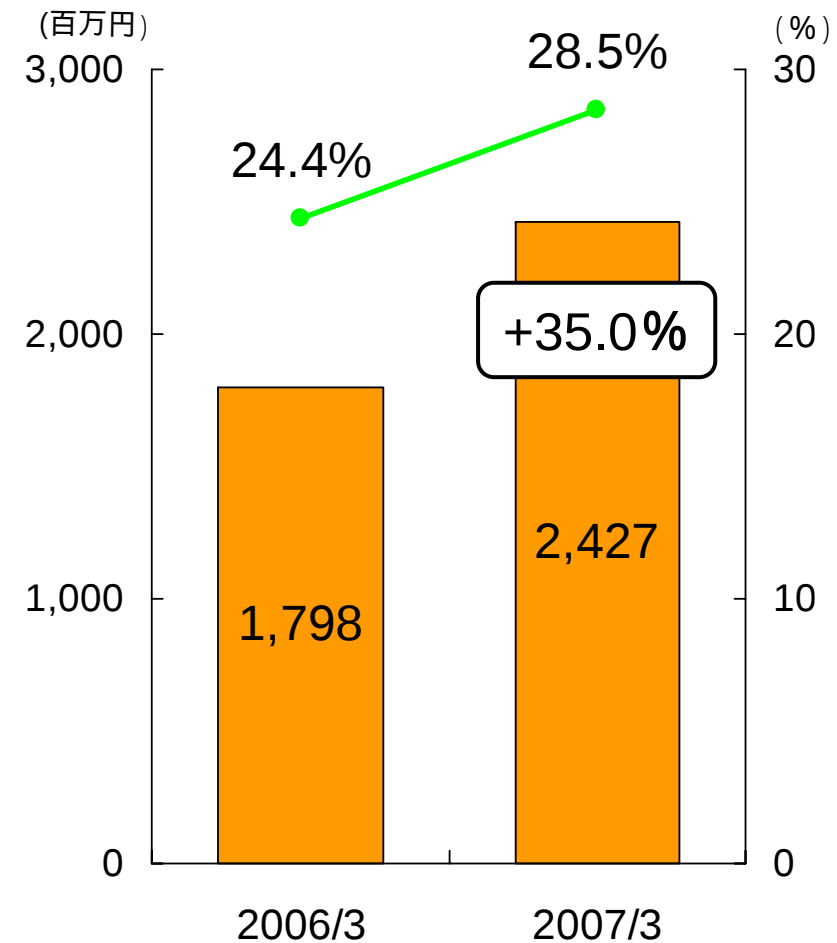


□ は対前期増減率

売上高



売上総利益(率)

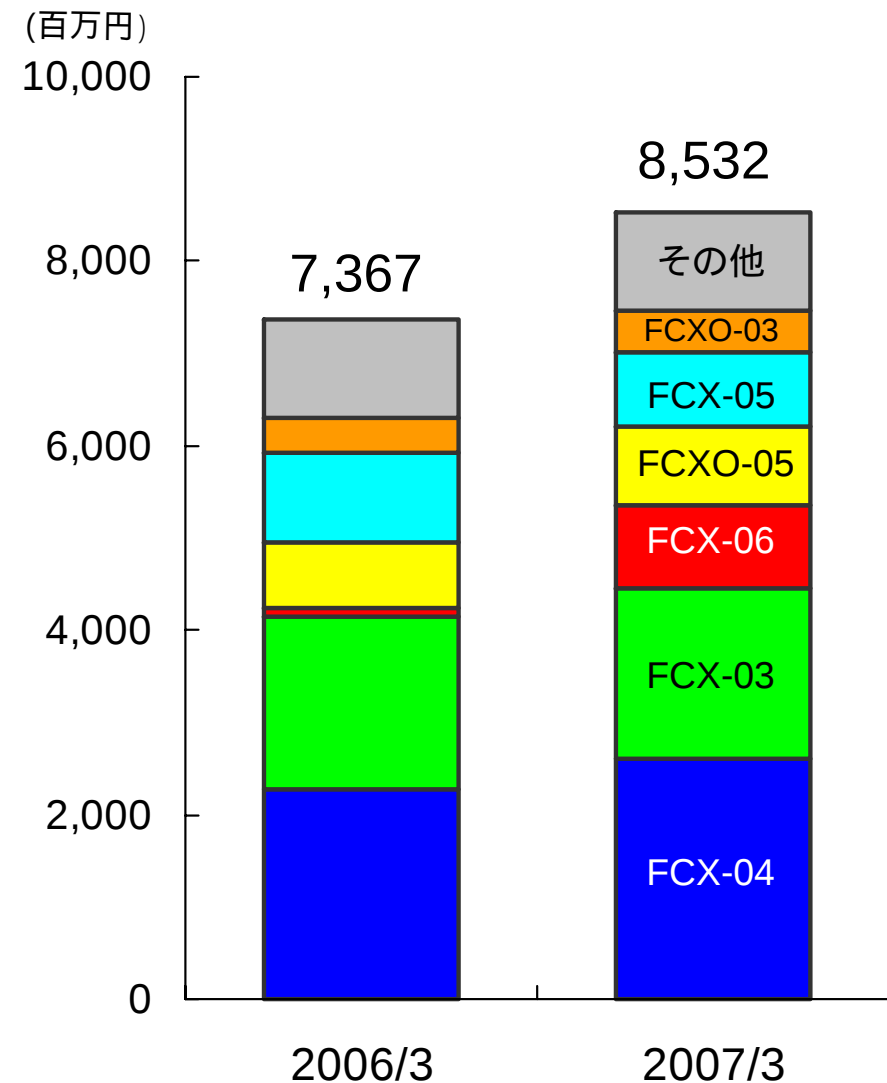


水晶製品別売上高

- FCX-06:840%のアップ
- ボリューム製品は無線モジュール、PC関連が好調
- 水晶発振器比率は15.6%と前期比横ばい

売上高構成比

	2006/3	2007/3
F C X - 0 4 (3225)	31.0%	30.5%
F C X - 0 3 (5032)	25.4%	21.7%
F C X - 0 6 (2016)	1.3%	10.8%
FCXO-05 (2520)	9.6%	9.9%
F C X - 0 5 (2520)	13.0%	9.6%
FCXO-03 (5032)	5.4%	5.3%
その他の水晶製品	14.3%	12.2%

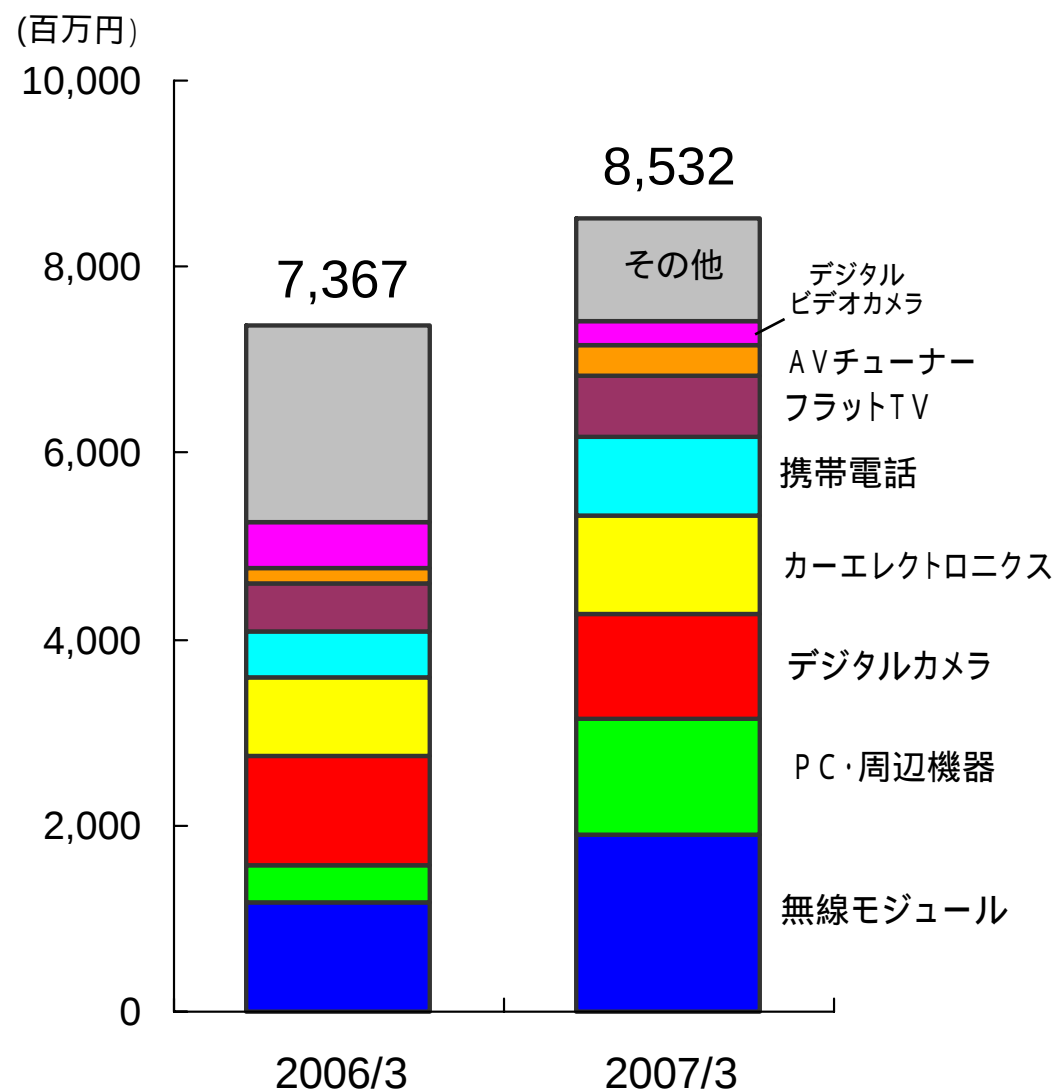


水晶製品アプリケーション別売上高

- 無線モジュールが好調
前期比78%のアップ
- PC関連はHDD向けが急増
- 携帯電話向けが好調
前期比70%のアップ

売上高構成比

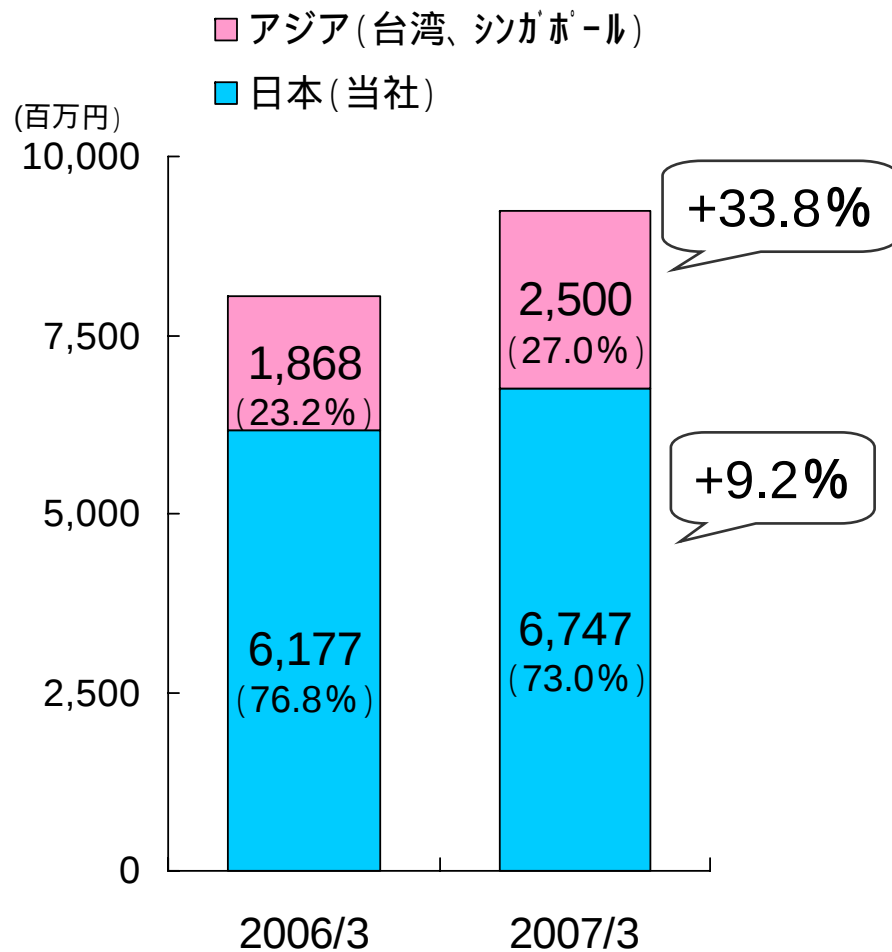
	2006/3	2007/3
無線モジュール	16.1%	22.3%
PC・周辺機器	5.4%	14.6%
デジタルカメラ	15.7%	13.2%
カーエレクトロニクス	11.6%	12.5%
携帯電話	6.7%	9.7%
フラットTV	7.0%	7.8%
AVチューナー	2.3%	3.8%
デジタルビデオカメラ	6.7%	3.2%
その他	28.5%	12.9%



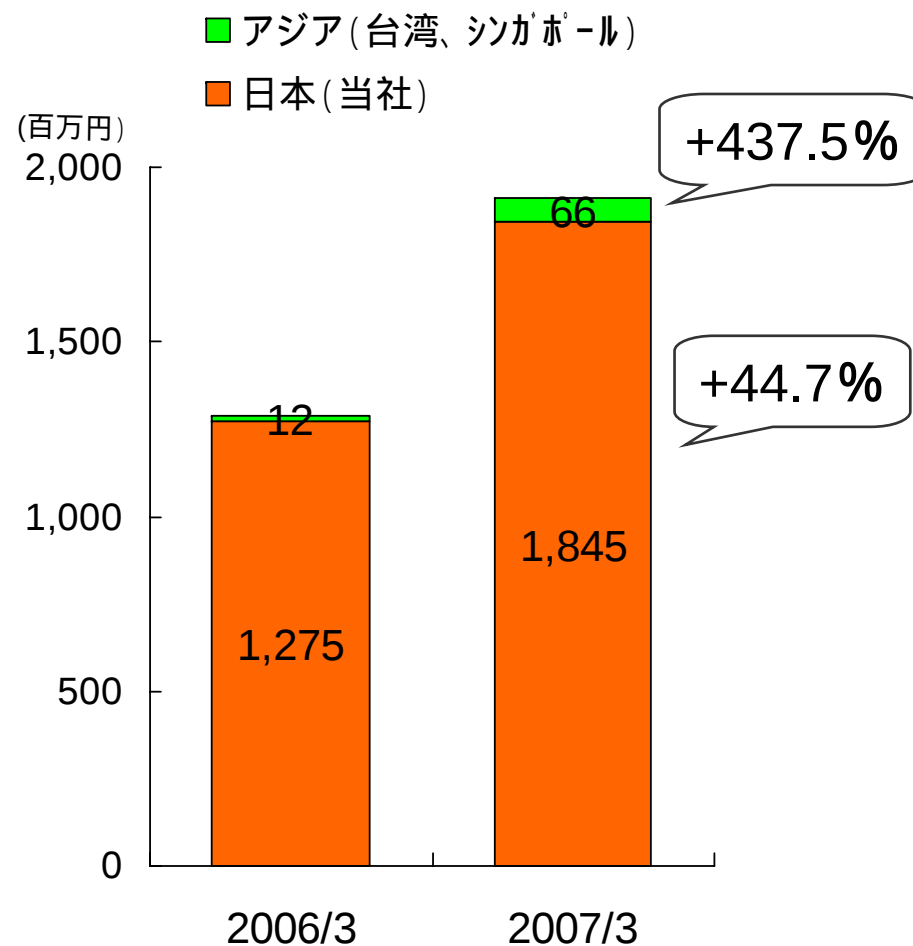
所在地別セグメント情報

()は売上高に占める割合。□は対前期増減率

売上高



営業利益



注) 営業利益には、「消去又は全社」に係る営業利益
(917百万円、 1,049百万円)は含まれておりません。

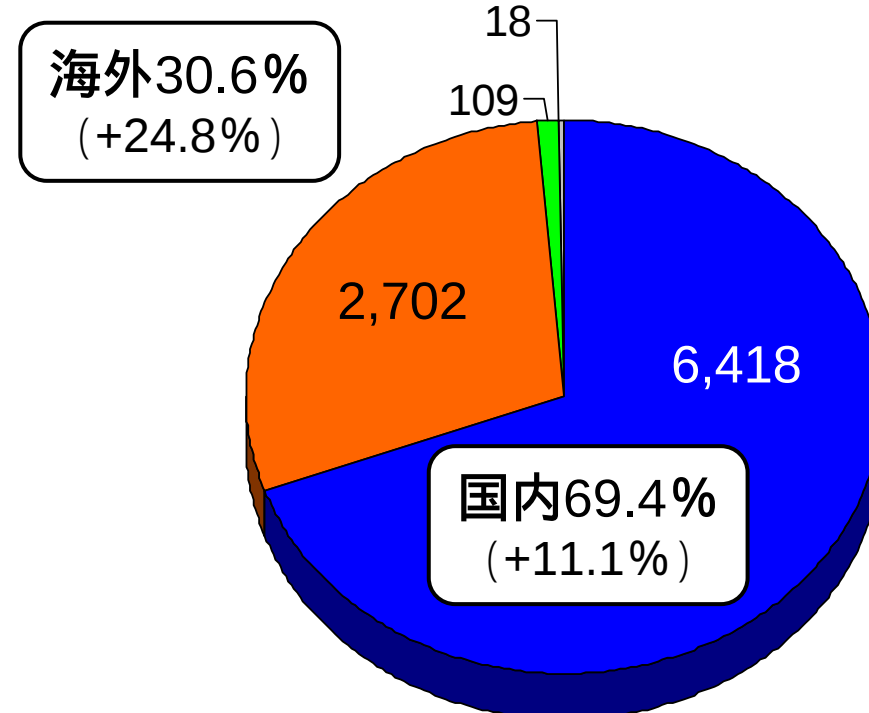
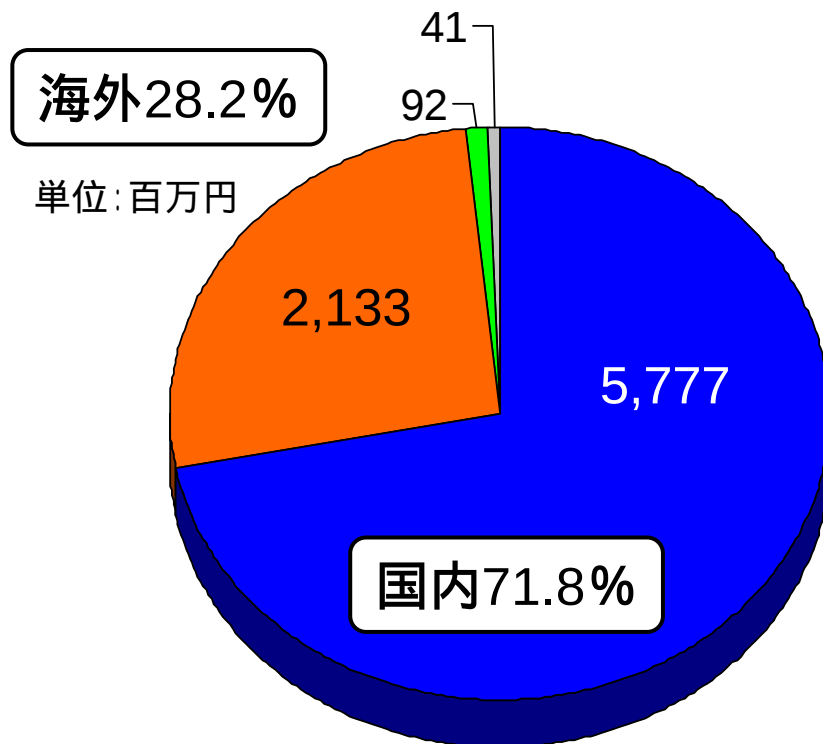
海外売上高

2006/3

2007/3

■ 日本 ■ アジア ■ 北米 ■ その他

■ 日本 ■ アジア ■ 北米 ■ その他

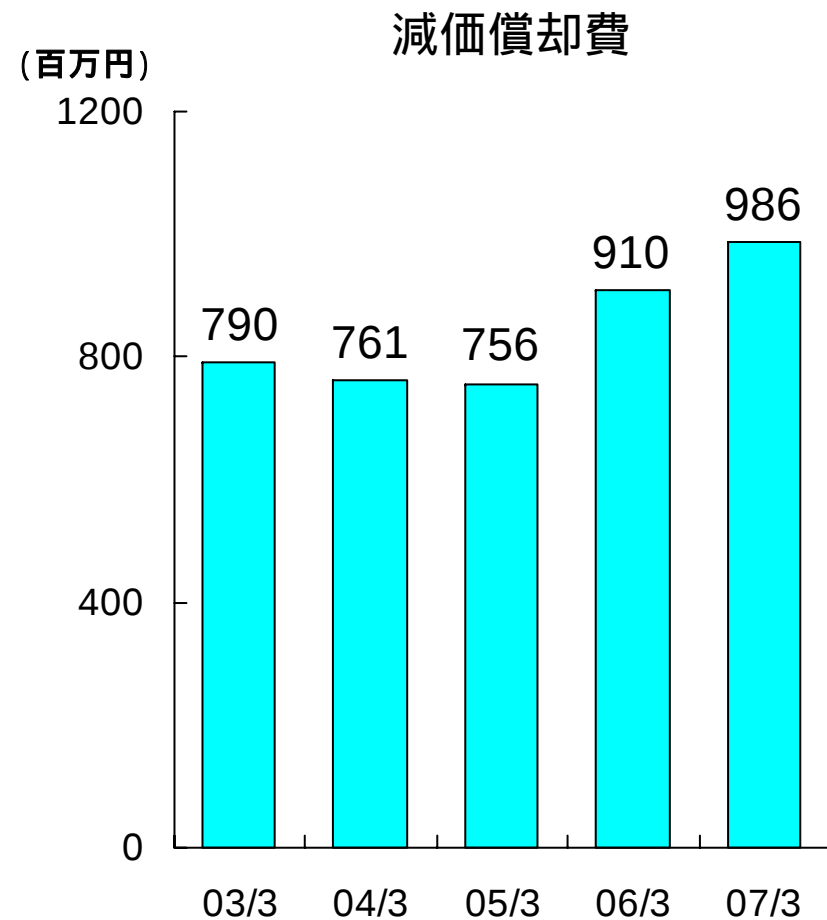
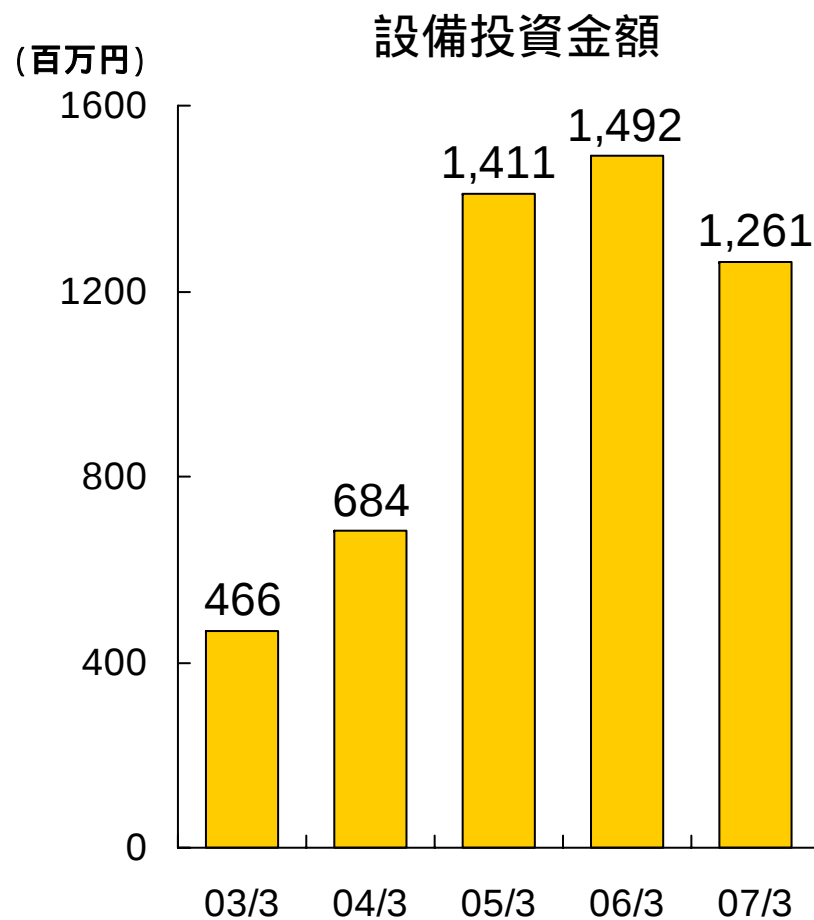


構成比
(前期売上高増減率)

連結貸借対照表

(百万円)	2007/3	増減額	2006/3	増減要因
流動資産	6,514	976	5,537	現預金+774、売上債権 + 259
固定資産	6,544	146	6,398	建物及び構築物+35、機械装置 + 77
資産合計	13,059	1,117	11,941	
流動負債	3,824	808	3,015	支払債務 + 119、設備支手+316、未払法人税等+289
固定負債	917	113	1,031	長期借入金 -93、社債 -20
負債合計	4,741	695	4,046	
純資産(資本+少数株主)合計	8,317	422	7,894	利益剰余金+368
負債、純資産(資本+少数株主)合計	13,059	1,117	11,941	
自己資本	7,980	399	7,580	
ROE	6.4%	4.0pt	2.3%	
設備投資額	1,261	230	1,492	水晶製品生産設備及びクリーンルームの増設
減価償却費	986	75	910	
有利子負債	1,777	107	1,884	

3期連続の10億超の投資を実施 それに伴い、償却費も上昇

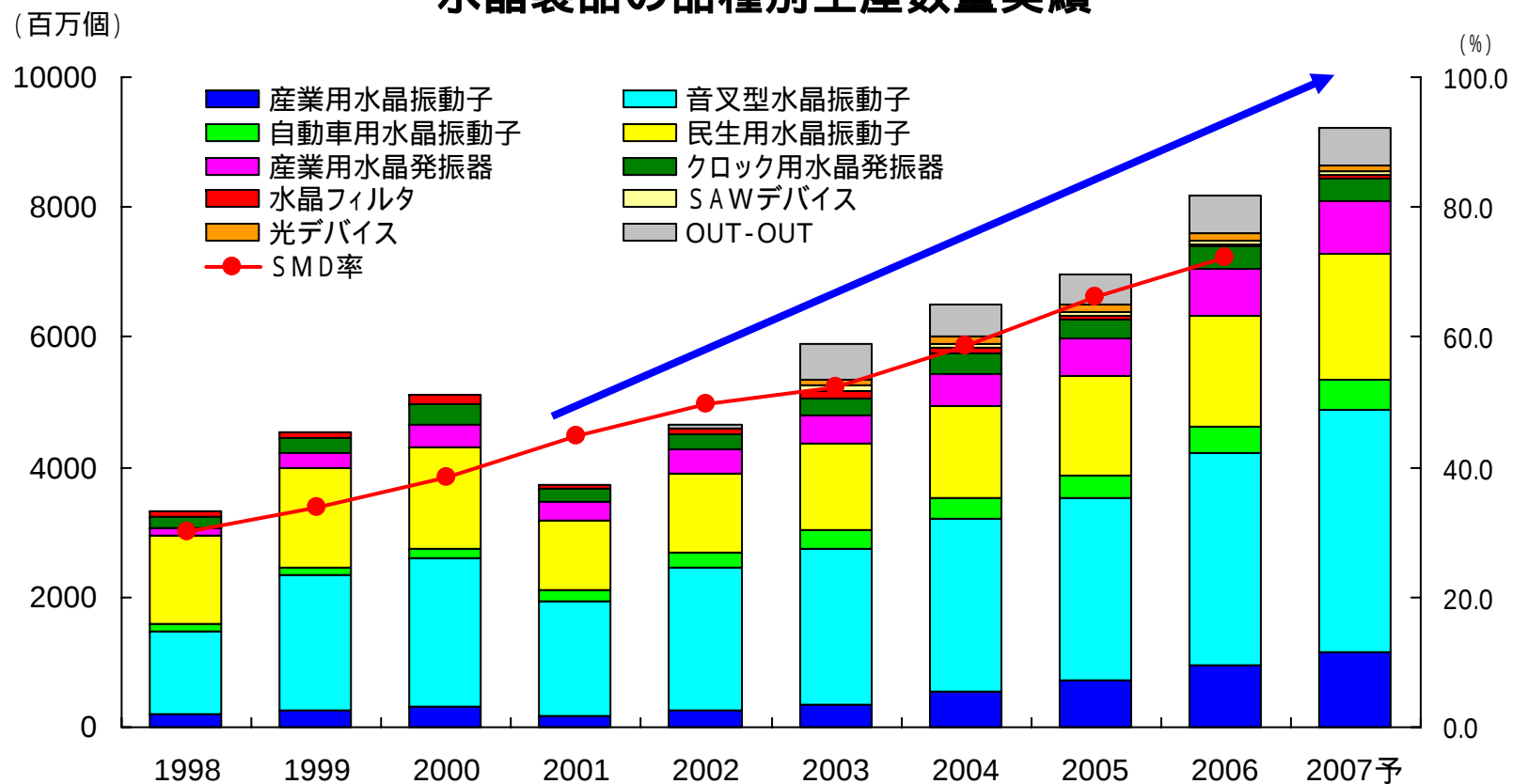


2008年3月期の経営方針と見通し

代表取締役社長
若尾 富士男

前年度に引き続き生産数量は堅調
2007年度予測92億個(前期比112.7%)

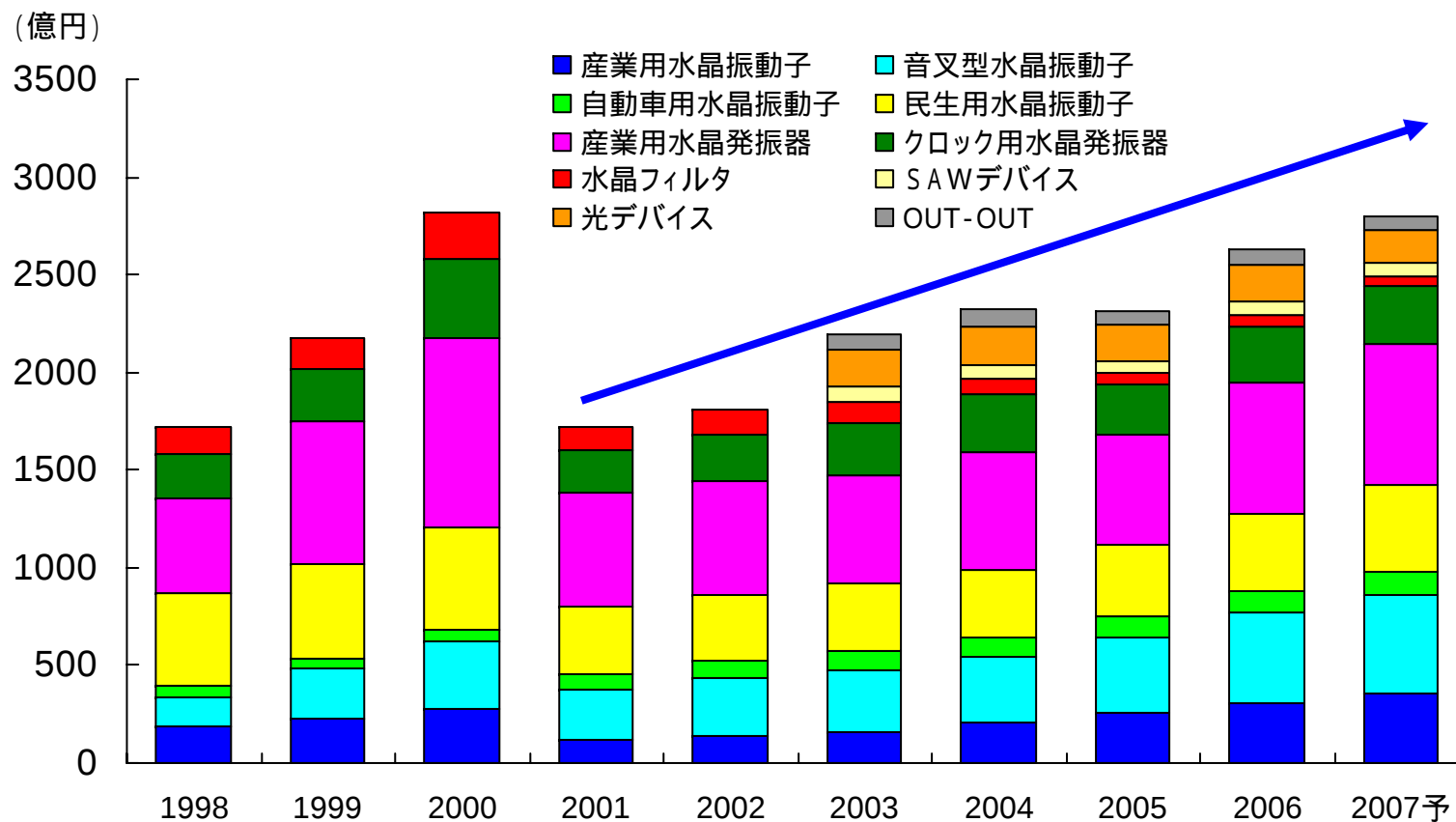
水晶製品の品種別生産数量実績



(注) 日本デバイス工業会資料より。

好調な需要を反映してプラス成長に
2007年度予測2,801億円(前期比106.7%)

水晶製品の品種別生産金額実績



(注) 日本デバイス工業会資料より。

3ヵ年中期経営計画(2006.3～2008.3)の最終年度

高付加価値企業の実現

源流・創価・革新の追及

売上高経常利益率:10%以上

ROE:7%以上

顧客の満足と
信頼の獲得

顧客の視点に立った
企業活動を推進し、
顧客の満足と信頼を獲得する

独創的発想による
価値の創造

独創的発想により
差異化を追及し、
新しい価値を創造する

事業改革による
持続的な成長

事業構造の改革により
収益性を強化すると共に
効果的に経営資源を投入し、
持続可能な成長を図る

■ 独自技術力を生かした超小型水晶製品の開発

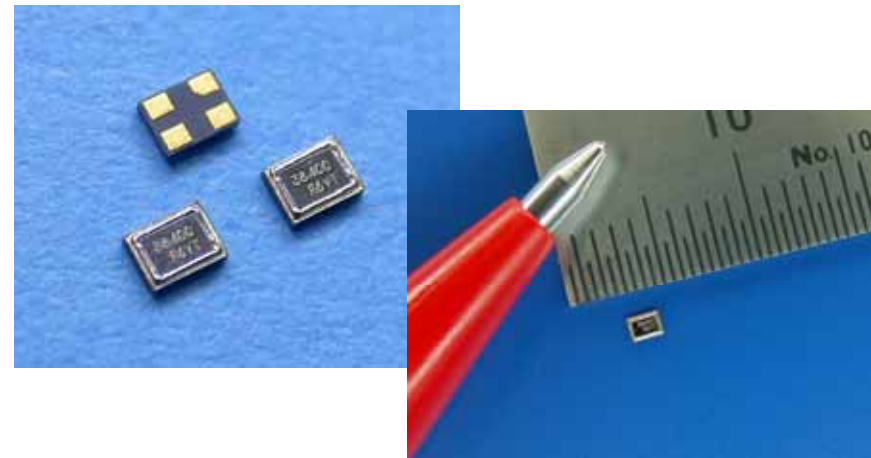
超小型水晶振動子

FCX-07

2007.1.29プレスリリース

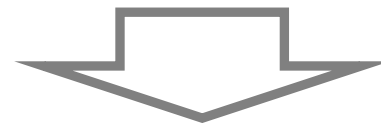
サイズ: $1.6 \times 1.2 \times 0.4\text{mm}$

(業界最小サイズ)



電子ビーム封止工法等

超小型分野へ先行開発・先行投入



優位性を生かした成長 & 収益力向上

■ 音叉型水晶振動子市場への拡販

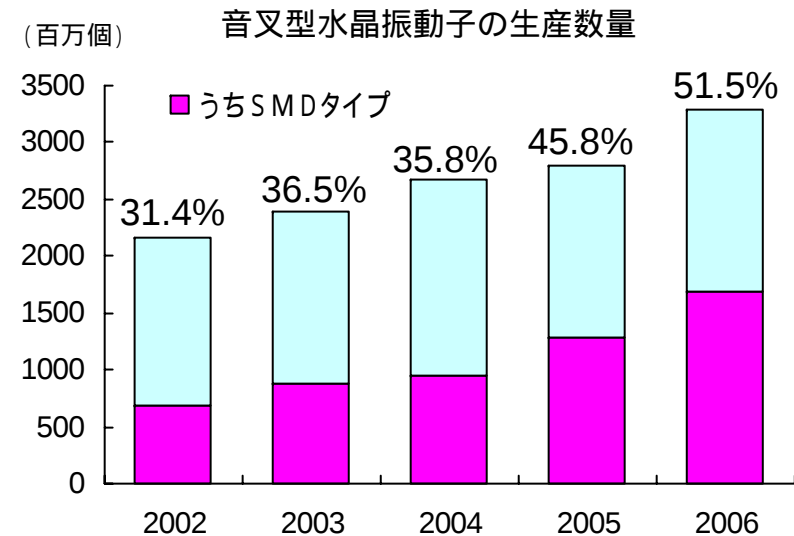
音叉型水晶振動子は、主に時計機能を持った電子機器に搭載される。

携帯電話等の小型機器に対する小型・薄型の要求が強い。

**小型SMDタイプで
市場を獲得**

低いSMD率

(音叉を除く水晶製品の2006年度のSMD率は**88.3%**)



(注) 日本デバイス工業会資料より。

当社小型SMD
音叉型水晶振動子
TFX-02
(3.2 × 1.5 × 0.8mm)

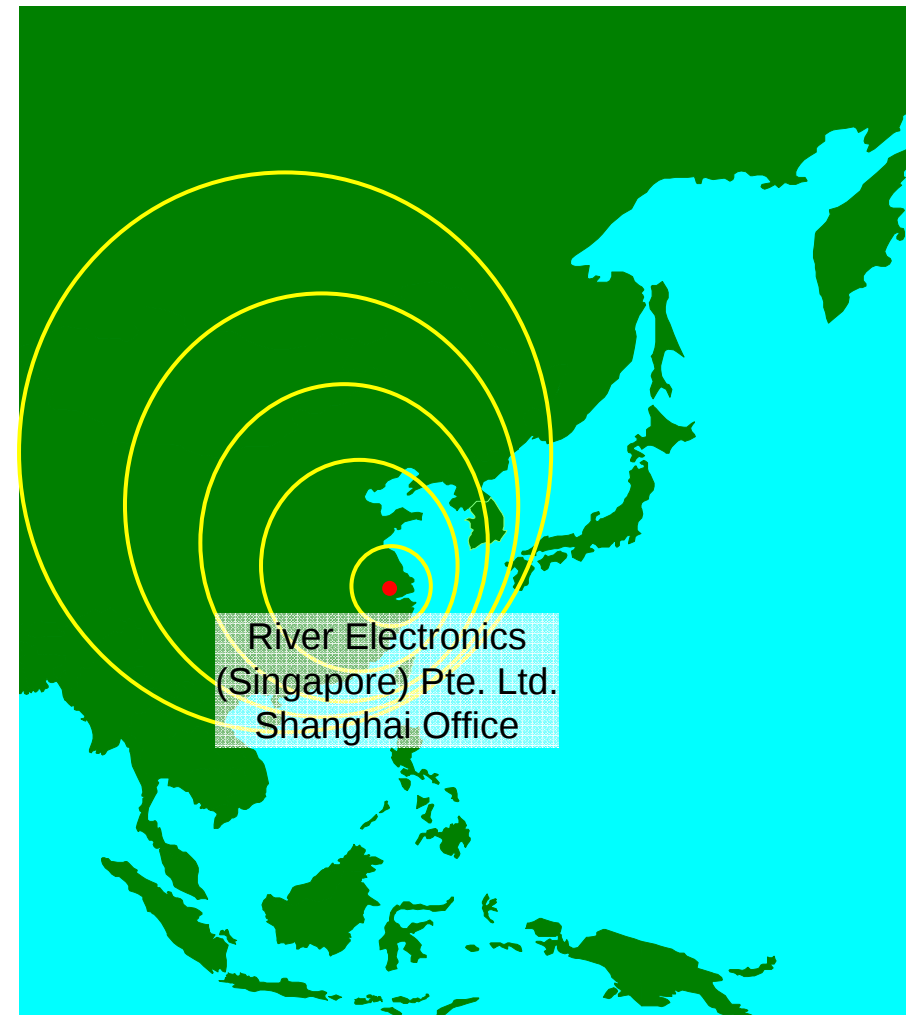
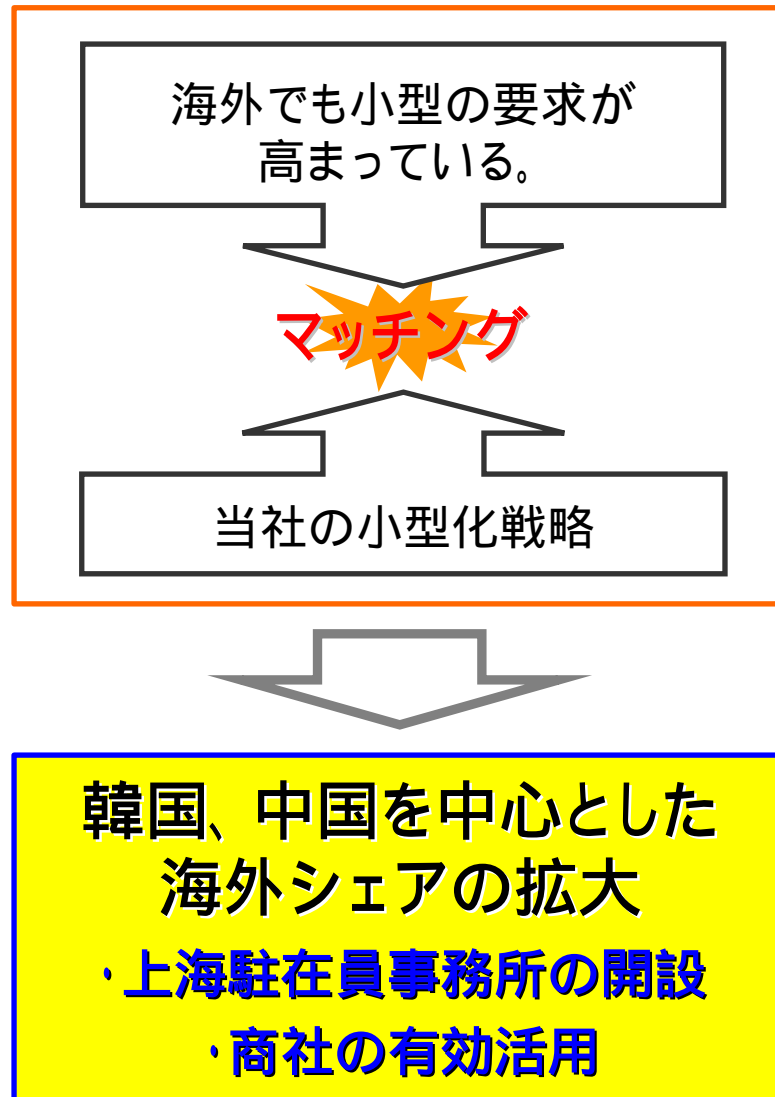


■ 販売活動の強化

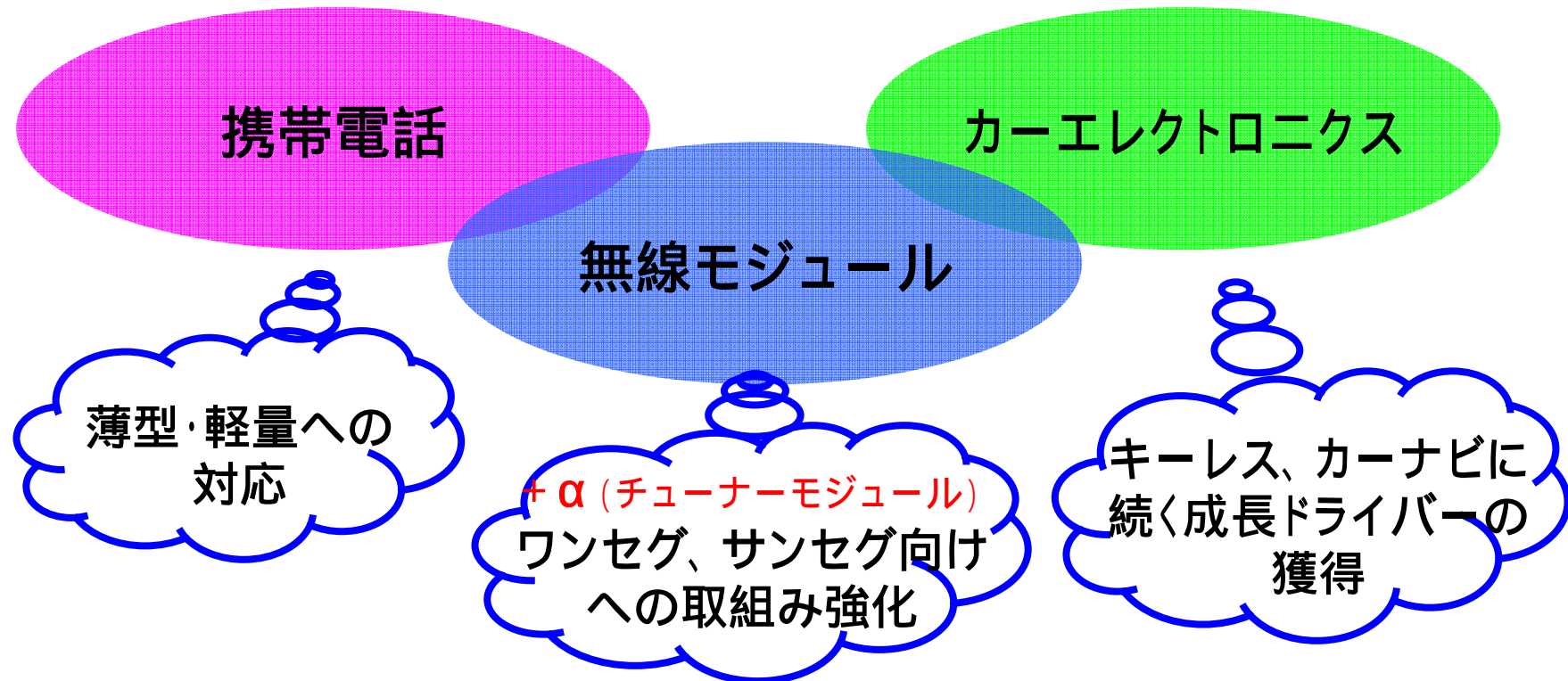


販売機会を確実に捉え、新たな市場開拓 & 収益力向上

■ グローバルなビジネス網の構築



■ 成長分野へFocus & Deep



販売ターゲットは前期と大きな変化はないが、常に時流に沿った提案活動を展開していく。

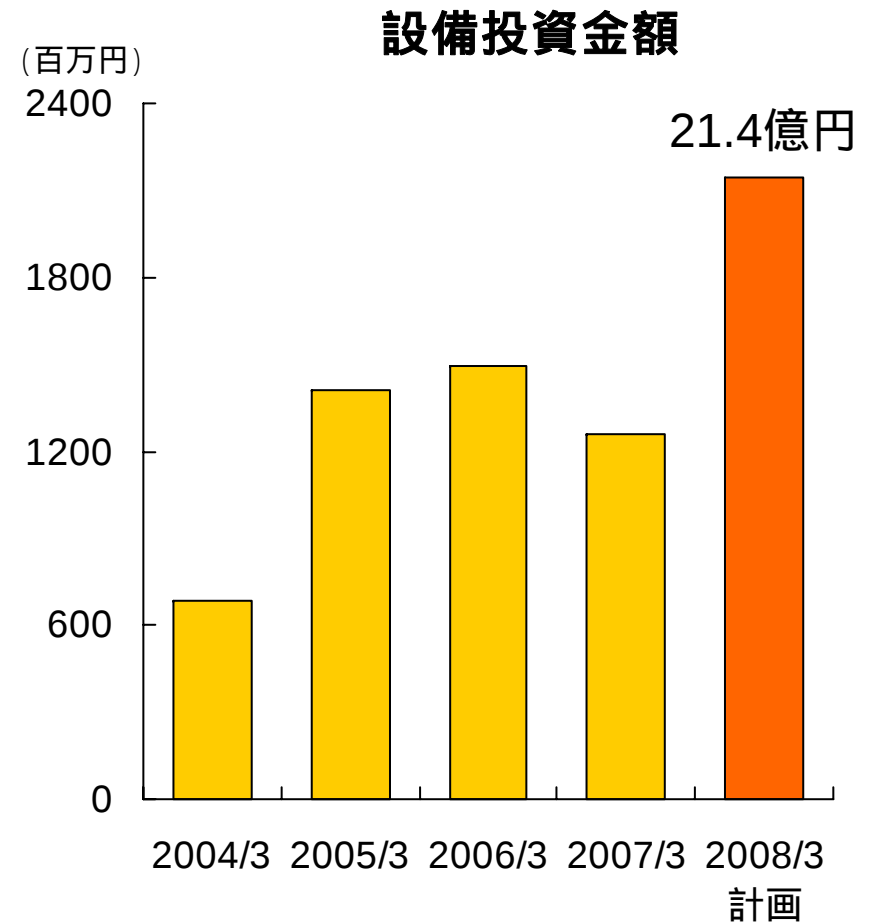
- 価値を創り込む活動の推進
 - ムダをなくす(ロスタイムの低減等)
 - スピードの向上(製造リードタイムの短縮等)



投資計画 & 生産能力 (2008年3月期末)

■ 月産2100万個 → 2500万個体制へ

小型水晶製品の
能力増強が急務



	中間期	通期
■ 売上高	46億82百万円	100億19百万円
■ 営業利益	4億97百万円	10億77百万円
■ 経常利益	4億91百万円	10億71百万円
■ 当期純利益	2億96百万円	6億35百万円
■ 1株当たり 当期純利益	39円54銭	84円89銭

3ヵ年中期経営計画の目標達成へ！

- 長期安定的な企業価値向上によって、安定的な配当を継続的に行うことと、連結業績及び配当性向等を総合的に勘案して利益還元。

	中間期末	期末	年間	配当性向
2006年3月期	—	15.00円	15.00円	73.2%
2007年3月期(予定)	—	15.00円	15.00円	22.5%
2008年3月期(予想)	7.50円	7.50円	15.00円	17.7%

One and Only Creator

RIVER

このプレゼンテーション資料には、2007年6月1日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競合状況・為替・金利の変動等にかかわるリスクや不確定要素により実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があります。